

成果の説明書

(氏名) 夏莉 佐宜	(学部) 経済学部
1 重要事項 A. 研究活動 1) 個人研究 英語教育と第二言語習得に関して研究と研究発表をいたしました。主な活動は以下の通りです。 - 英語スピーキングタスクに関する研究について、収集したデータ分析を実施しました。 - 第44回全国英語教育学会京都大会（2018年8月26日、龍谷大学）で英語のスピーキングタスクに関する研究発表をいたしました。 - 英語スピーキングタスク研究について、さらなるデータ収集を実施しました。この結果については2019年度中に発表予定です。 - BAAL 2018 (British Association of Applied Linguistics, 6-8th September 2018, York St John University, UK) に参加しました。 - ロンドンの大英図書館にてクラスサイズ研究に関する文献収集を2018年9月と2019年2月の二度にわたって実施しました。また、クラスサイズに関するアンケート調査を実施しました。この結果は2019年度中に発表予定です。 - ライティングとフィードバックに関する研究データ収集は2017年度から引き続き実施中で、2019年度にも予定しています。 2) 学会活動 参加している英語教育に関する学会や研究会の活動を行いました。 - 大学英語教育学会 JACET SLA 研究会：副会長と会計を兼務しました。また、2019年3月16日に獨協中学高等学校にて実施された研究会に参加、発表しました。 - 関東甲信越英語教育学会の第42回栃木研究大会（8月19日、白鷗大学）に参加いたしました。 B. 教育活動 英語部会としてカリキュラムの運営に従事し、以下の活動を行いました。 - 2018年度のカリキュラム運営に関する業務一般 - 英語 e-Learning 教材の個人利用促進業務	
2 その他の事項 英語科目担当者として General English I, II (Pre-Intermediate) と Business English III, IV (Intermediate) のコーディネート業務をいたしました。	
3 次年度以降の計画・抱負 2018年度は英語教育と英語習得に関して、研究データや文献のインプットの方面でと	

でも充実した研究活動を実施することができました。特に、BAAL 2018に参加することで、改めてティーチングの最終的な目的は学習者が implicit knowledge の習得することにあるのだという基本に立ち返ることができました。英語習得や第二言語習得理論について研究している知識を、大学のカリキュラムや授業実践に活かしていきたいと思います。研究活動については、発表予定の調査がありますので、引き続き現在進行中の研究をさらに進めたいと思います。